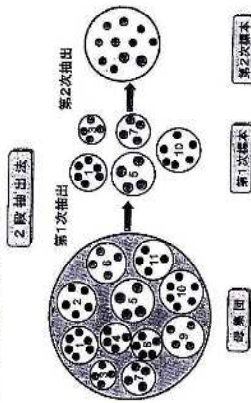


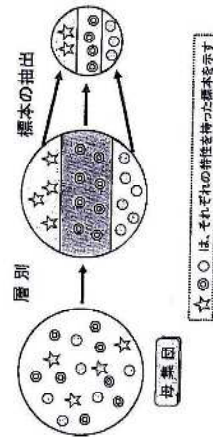
■ 多段抽出法

母集団が全国規模に相当するよう大きな大がかりな調査の場合には、標本抽出の作業量は膨大になるため、多段抽出法が利用される。その方法では、母集団を無作為に支障を来さない何らかの基準で群分けを行い、その群の中からまず一定数の群を無作為に抽出する。抽出した各々の群をさらに細かい基準で群分けを行い、その小群の中から、無作為に一定数を抽出する。このような過程をくり返して、膨大な情報から統計処理に適した一定数の標本を確保しなく抽出する方法である。抽出段階数はいくらか設定してもよい。例えば、全国規模の調査をする場合、はじめに都道府県を抽出し、次に市町村を抽出し、さらに地区を抽出し、最後に個人を抽出するなどの方法がとられる。下図では、簡単な二段抽出法の例を示す。



■ 層別抽出法 (層化抽出法)

層別抽出法は、調査対象とする事象が、ある特定の人口層によって影響されると分かっている場合に、それぞれの人口層から満遍なく対象個体を選ばなければならない場合を利用される。例えば、国民の生活満足度調査を実施するとした場合、母集団としての国民全体を、年齢階層別や所得階層別、都市階層別 (大都市、人口10万人以上の市、人口10万人以下の市・町・村など) など、あらかじめ区分しておき、それぞれの層・区分から適りなく無作為に標本抽出することになる。なお、対象個体をこのように層・区分に分類して取り扱うことを層別化という。下図の例では、特定の個人特性で、母集団を層別化しておき、各層から、一定の割合で無作為に標本抽出する例を示す。



☆ ◎ ○ は、それぞれの特性を持った標本を示す

抽出方法		メリットとデメリット
無計画抽出	応答法 ●新聞や広報などで応募者を募って標本を抽出する方法 抽選法 (スノーボール法) ●調査者の知り合いや勧誘先などに依頼して標本を抽出する方法 計画抽出 ●母集団を代表すると考えられる典型的なケースを調査者の判断によって選ぶ方法もある 割当 (クォータ) 法 ●属性ごとに母集団を分けて標本を抽出する方法	●無作為抽出が困難な場合に用いられる。予備調査などに選んでいる ●対象集団の偏りが避けられず、母集団を代表する標本が抽出できるとは限らない

表2 有意抽出の方法

◆ 縦断調査と横断調査

⑪ 横断調査と縦断調査

横断調査………一時点における社会の状態を明らかにするための調査。
 縦断調査………一定の時間間隔をおいて繰り返し調査を行い、社会の変化などを明らかにするための調査。次のような方法がある。

- ① コーホート調査 同時期に生まれた人口集団を追跡して同じ内容の調査を繰り返し行う縦断調査の方法。
- ② パネル調査 1回目に調査した相手と同じ相手に繰り返し調査を行う縦断調査の方法。

③ 傾向調査 定期的に同一一定数の集団に繰り返し調査を行う縦断調査の方法。

◆ 自記式調査と他記式調査

⑫ 調査票の記入方法

自記式 (自記式) ……調査の回答者が自ら質問紙に回答を記入する方法。
 他記式 (他記式) ……対象者に聞き取りを行い、調査員が質問紙に記入する方法。

◆測定

13 尺度 (スケール)

14 尺度のレベル(水準)
★★

抽象的な概念を測定するための道具を指す。

名義尺度……「あり」「なし」を聞くような、名前だけの意味しかもたないもの。足したり引いたりできない。「あり=1」「なし=2」としても、「あり=2」「なし=1」としても不都合はない。例えば、「あなたの最も好きな果物は何か」という質問に対して、「1=りんご、2=みかん、3=バナナ、4=梨……」という項目を立てること。

順序尺度……順序としての情報をもち、「軽度=1」「中度=2」「重度=3」のように数値をあてはめるものである。数値が入れ替わり、「軽度=1」「重度=2」「中度=3」となると、順序の情報が失われてしまっている。

間隔尺度……目盛の間隔が等しい尺度のことをいう。絶対原点(=0)はなく、足し算と引き算はできるが、掛け算と割り算はできない。例えば、テストの得点で「80点の人より40点の人より2倍理解度が高い」とはいえない。比率尺度……尺度値の間隔が等しく、絶対原点(=0)をもつ尺度のことをいう。足し算、引き算、掛け算、割り算ができる。例えば、身長、体重、重さ、時間など。

15 量的データと質的データ(カテゴリーカル)データ
★

16 信頼性
★★

大まかにいえば、名義尺度と順序尺度によるデータは質的(カテゴリーカル)データ、間隔尺度と比率尺度によるデータは量的データといえる。

測定の安定性(同一人物に同一条件で同一質問を行った場合に同一結果が得られるか)や一貫性(同一人物に同じような内容の質問を行った場合に同一方向の回答が得られるか)の程度をいう。

①新手法……スケール項目を2群に分け、それぞれの合計得点の相関係数を算出し、信頼性係数の推定値とする方法。

②内的整合法……項目間の整合性をもとにクロンバックの α 係数とよばれる信頼性係数を算出する方法。 α 係数は測定を繰り返し行った場合の得点間の相関係数の推定値と考えられ、信頼性係数の推定値のなかで最も低い値を示す。

③平行検査法……同じ概念について2つのスケールを作成して同時に実施し、両者の相関係数を信頼性係数の推定値とする方法。

④再検査法……ある程度の間隔をおいて2度の測定を行い、測定値の間の相関係数を算出し、信頼性係数の推定値とする方法。

尺度水準	調査対象に割り振った数値。測定により得られたデータを、情報の性質に基づき統計学的に分類する基準
名義尺度	名義尺度はデータを区分するための尺度であるため、中央値を求めることができないが、最頻値は求めることができる。
順序尺度	順序には意味があるがその間隔には意味がないので、最頻値や中央値は求めることができるが、平均は求めることができない。
間隔尺度	目盛が等間隔になっているもので、最頻値、中央値、平均は求めることができるが、比例は求めることができない。
比例尺度	比例水準の原点(0)は絶対的で、最頻値、中央値、平均、比例のすべてを求めることができる。

17 妥当性
★★

測定したい内容が正確に測定できている程度をいう。

①表面的妥当性……質問文が測定したい内容を正確に表現しており、他の解釈可能性がない程度のこと。

②内容的妥当性……測定しようとする概念の構成要素について、偏りなく質問項目が選ばれている程度のこと。

③遷移関連妥当性……測定しようとする概念を測定できているかどうかを外的基準によって判定すること。

④構成概念妥当性……複数の領域によって成り立つ概念について、それぞれの概念を見分けられる質問項目が設けられているかどうかを因子分析によって検討すること。

18 回答の方法
★

単一回答法……選択肢の中から一つだけを選ぶ方法。

複数回答法……選択肢の中からあてはまるものを複数、もしくはすべて選べる方法。

19 測定の方法
★★

多肢選択法……複数の選択肢の中からあてはまるものを選択し回答する方法。

リッカート法……質問文を読み、その内容にどの程度どうするかを表明する方法。

SD (Semantic Differential) 法……相対する両極の態度や考え方について、回答者がどの位置にいるかを表明する方法。

選択肢法 (選択回答法) の例

多肢選択法 (単回回答法)	
①二項 (否) 択一法: はい・いいえ (O・X) で答える	例: あなたは○○を利用したことがありますか? (はい・いいえ)
②程度・度合いを示すスケールから1つ選んで答える	例: あなたはどの程度○○を利用していますか?
(1. よく利用する, 2. ときどき利用する, 3. 利用したことはない)	例: あなたの理解度を次のスケールのなかの数字に○をつけて示してください。
(よく理解している 5 4 3 2 1 全く理解していない)	

◆質問紙の作成方法と留意点

- ②0 調査票作成における留意点
 質問紙の言葉遣い（ワーディング）については、次のことに留意する必要がある。
 ①ダブルバーレル質問（1つの文に複数の質問を含む質問）は、回答者がどちらに答えていかかわからないため、避けなければならない。
 ②専門用語や職業語を使用すると、回答者が一般の人の場合などは質問の意味が理解できないことがあり、注意が必要である。
 ③否定語やバイアスの含まれる用語、ステレオタイプ化した用語を質問項目に使用すると、回答を誘導する可能性があり、注意が必要である。
 ④質問の配列によっては、キャリアオーバー効果（直前の質問が後ろの質問の回答に影響を与えること）が起きる可能性があり、注意が必要である。
 ⑤イエス・テンデンスは、どのような質問に対しても「はい」などの肯定的な回答をしようとする傾向のことをいう。説明の順序が逆になる「逆転項目」を設けるなどの工夫が必要である。
 ⑥定義のあいまいな用語や表現を使用すると、回答者によって想定する回答が異なる可能性があるため、避けなければならない。

選択肢のように事前にコードをつけておくことをプレコーディング、自由記述などの回答にあらかじめコードをつけることをアフターコーディングという。

本調査に移る前の予備調査のことをいう。調査票や説明に不備はないかを確認することが目的である。

◆調査票の配布と回収

- ②1 プレコーディングとアフターコーディング
- ②2 郵送調査（フリテス）

②3 調査の方法
 調査票の回収

方法	内容	メリット	デメリット
郵送調査	調査票の配布・回収を郵送によって行う方法	対象者が広範囲の場合に有効	回収率が低い
配票調査	調査員を通して、調査票の配布・回収を行う方法で、留置法ともいう	回収率が比較的高い	調査費用が高い
個別面接調査	調査員が質問して回収する調査票に記入する方法	回収率が比較的高い、無回答などの回答ミスが少ない	調査費用が高い
集合調査	調査対象者に会場に集まってもらい、一斉に調査票を配布・回収する方法	回収率が高い、短時間で実施可能	回答者に盛りが生じやすい
電話調査	調査対象者に電話をかけて質問し、調査員が調査票に記入する方法	短時間で実施できる、費用が抑えられる	拒否が多い

表3 調査の方法の種類

◆量的調査の集計と分析

②4 推定と検定
 推定……標本の統計量から母数を予想すること。
 検定……調査の結果が母集団においても認められるかどうかを、統計的仮説の成否によって検討すること。

②5 帰無仮説と有意水準
 否定されることで、調査者の正しいと考えていることの立証を試みるための仮説で、否定されることが期待される仮説のことを帰無仮説という。
 一定の手続きによって帰無仮説を棄却できるかどうかを判断する基準を有意水準という。

②6 第1種の過誤と第2種の過誤
 帰無仮説の棄却または採択において、判断を誤る可能性が2通り考えられる。一つは帰無仮説が正しいにもかかわらず棄却してしまう誤りであり、これを第1種の過誤という。もう一つは、帰無仮説が棄却しているのに採択してしまう誤りであり、第2種の過誤という。

②7 独立変数と従属変数
 社会調査において原因と結果の検討を行う場合、独立変数は原因（影響を与える）、従属変数は結果（影響を受ける）を表す。また、独立変数を「説明変数」、従属変数を「被説明変数」「目的変数」ともいう。

②8 度数分布表
 変数の各値が出現する頻度（度数）を表にしたものを度数分布表という。

②9 2変数間の分析
 2変数間の分析は、データの種類の種類や分析の目的に合わせて、方法を選ぶ必要がある。クロス集計表（カイ2乗検定）、t検定（平均値の差の検定）、ピアソンの積率相関係数、一元配置分散分析などがある。

③0 多変量解析
 3変数以上を同時に分析する統計分析法のことを総称していう。三重クロス集計（エラレーション）や対数線形モデル、重回帰分析、パス解析、ロジスティック回帰分析、因子分析、クラスター分析などがあり、データの種別や目的に合わせて、適切な方法を選ぶ。

◆資料の活用

アフターコーディング	調査票を回収した後、自由記述の回答を一定の基準により分類し、分類したカテゴリごとに特定の記号を付与すること
単純集計	「1つ」の変数を集計・分析し、変数の分布を明らかにする
クロス集計	「2つ以上」の変数に着目し、集計・分析を行い、変数間の関連性を推察する
記述統計	収集したデータの平均や分散、標準偏差などを計算して分布を明らかにし、データの示す傾向や性質を把握する手法
推計統計	集団の一種のデータから集団全体の特性や傾向を明らかにする手法
カイ2乗統計量	2つの変数が独立であるとした場合の期待度数からなる表と、実際の観測度数からなる表の間の全体的なズレを表す（観測度数と期待度数のずれを数値にする） $\chi^2 = \sum \frac{(O - E)^2}{E}$ (O:観測値、E:期待値)
クロンバックの α 係数	複数の測定項目間に内的整合性があるかどうかを調べるために用いられる

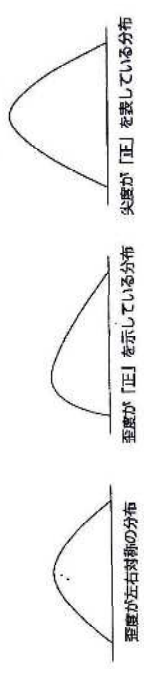
■平均値
分布するデータのすべての値を足し合わせて、データ数(回答数)で割った値。なお、平均値は極端に高い数値、または低い数値などのはずれ値がある場合、適切な統計量とはいえず、注意が必要である。たとえば、年収が200万円の人が9人、1000万円の人1人だと、平均は280万円になるが、多くの人は平均値を下回っている。

■中央値と範囲
中央値は、分布するデータを大きさの順に並べて中央に位置する値。データ数が偶数の場合は、中央値2つの平均を取る。最頻値は、分布するデータのなかで最も頻りに現れる値をいう。

表2-3 中央値と最頻値

No	年収
1	1000万
2	900万
3	800万
4	800万
5	700万
6	700万
7	500万
8	500万
9	900万
10	300万
11	200万

- ①歪度：データの分布が平均値を中心に左右対称になつていないかどうかを示す指標のことをいう。データが低い方に偏っている場合を「正」、左右対称を「0」、高い方に偏っている場合を「負」と表す。
- ②尖度：データの分布の中心部が突出しているかどうかを示す指標のこと。中心部のデータが突出している場合を「正」、低い場合を「負」と表す。



■t検定
2つの母集団の平均値が等しいかどうかの検定には平均の差の検定を用いる。この平均の差を検定する際に有効な検定法である。母集団の分散が知られていない場合に用いる。

■ χ^2 (カイ二乗)検定
クロス表などにおいて、母集団において2変数の間に何の関係もない場合に期待される各セルの値(期待値)と実際に調査等で得た値(観測値)がどの程度一致するかを測定して関連の有無を検定する方法。

■相関係数
2つの変数の間の関連の度合を数値で測定する方法。ピアソンの積率相関係数に代表される。これは、2つの変数を標準偏差を用いて変換関数を標準化するため、測定単位(たとえばcmなど)の影響を受けない。この係数は、1に近いほど関連が強く、0に近づくとしたが、関連が低くなる。また、相関の方向性を正の相関(一方が増加すると、もう一方も増加する)と負の相関(一方が増加すると一方が減少する)で表す。

相関係数の値が大きい小さいかは絶対的なものではなく、変数間の相関関係の強弱を示し、あくまで相対的なものである。

■回帰分析
2つの変数の測定値の間で、一方の変数の変動を他方の変数の変動によってどの程度正確に予測することが可能かという考えに基づいて、2変数間の関連を分析する統計的方法。

■多変量解析
①重回帰分析：変数が2個以上の場合の回帰分析。1つの従属変数yを予測するために、複数の説明変数x1, ..., xpの1次結合を求める方法。

②因子分析：一般的な行動模式に属するデータを多項目にわたって調査した際、それらの項目のいくつかに共通した要因が作用していると考えられる場合、それぞれのデータが示す数多くの変数を、より少数の共通因子に縮約し、解釈しようとする方法。

■度数と度数分布(単純集計)
各設問の単純集計で選択された項目の度数の分布を表の形式に整理する。度数分布を単純と相対度数(パーセント)で表示し把握しやすくする(度数分布表、単純集計表)。

表2-1 単純集計表の例(年代の回答)

No.	カテゴリ	件数	割合(%)
1	20歳代	157	10.0
2	30歳代	222	14.2
3	40歳代	254	16.2
4	50歳代	294	18.8
5	60歳代	288	18.4
6	70歳代	343	21.9
7	無回答	7	0.4
サンプル数(%ベース)		1,565	100.0

■クロス集計
対象者の属性項目と意識や態度を示す項目との関係をみる必要から、それぞれの設問を掛けあわせて集計すること。また、仮説の検証との関係で設問間のクロス集計を行うこともある。なおクロス集計表において、値の大小を比較するだけでは、変数間の関連を意味しているとは限らず、後述する統計的検定で検証する必要がある。

表2-2 クロス集計表の例(ボランティア活動の継続)

上段：変数 下段：%	1年間のボランティア活動継続			無回答
	合計	ある	ない	
合計	1565 100.0	481 30.7	1001 64.0	83 5.3
20歳代	157 100.0	20 12.7	135 86.0	2 1.3
30歳代	222 100.0	53 23.9	163 73.4	6 2.7
40歳代	254 100.0	74 29.1	175 68.9	5 2.0
50歳代	294 100.0	94 32.0	191 65.0	9 3.1
60歳代	288 100.0	117 40.6	156 54.2	15 5.2
70歳代	343 100.0	122 35.6	176 51.3	45 13.1
無回答	7 100.0	1 14.3	5 71.4	1 14.3

過去問に挑戦!

- 問題 尺度を用いた測定の信頼性に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。
第22回 (2010年) (70)
- 1 信頼性が高ければ、測定したい事柄を適切に測定できているといえる。
 - 2 信頼性を検討する手法の一つである折半法とは、調査対象者を半分ずつに分けて、それぞれに同一の測定を行う方法のことである。
 - 3 再検法で信頼性を検討する場合、1回目の検査と2回目の検査の間隔が広ければ広いほど、時間的安定性が高くて望ましい。
 - 4 クロンバウグの α 係数は、複数の測定項目間に内的整合性があるかどうかを調べるためのものである。
 - 5 同一の対象者集団に対して正反対の結果が出ると想定される2つの測定を行い、負の相関の強さを確認する方法のことを、平行検査法という。

答え 4

測定の信頼性とは、同一人物に同一条件で同一質問を行った場合に同一の結果が得られる安定性や、同一人物に同じような内容の質問を行った場合に同一方向の影響が得られる一貫性の程度をいふ。測定したい事柄を適切に測定できているかどうかを判断するのは測定の妥当性である(1は誤り)。折半法とは、スケール項目を2群に分けて実施するもので、調査対象者を分けるものではない(2は誤り)。1回目と2回目の検査はある程度の間隔をあけて行うが広ければ広いほうがよいとはいえない(3は誤り)。平行検査法は、同じ概念について2つのスケールを作成して同時に行い、両者の相関係数を信頼性係数の推定値とする方法である(5は誤り)。

- 次の記述の空欄A、B、Cに該当する語句の組み合わせとして、正しいものを一つ選びなさい。
- 標本調査とは、調査対象となる集団の一部を抽出し、**A**の特性を推測する方法である。集団の一部を抽出する方法は、確率理論に基づく**B**と、確率理論に基づかない有意抽出法がある。**B**には、一定の間隔で標本を抽出する**C**という方法がある。
- | | | | |
|---|-----|--------|---------|
| | A | B | C |
| 1 | 標本 | 無作為抽出法 | スノーボール法 |
| 2 | 標本 | 無作為抽出法 | 系統抽出法 |
| 3 | 標本 | 割当抽出法 | スノーボール法 |
| 4 | 母集団 | 割当抽出法 | スノーボール法 |
| 5 | 母集団 | 無作為抽出法 | 系統抽出法 |

- 統計調査の中で国勢調査等の全数調査に対して、標本調査は、市場調査や世論調査等の社会調査に用いられる調査方法である。
- A 母集団 調査対象の全体を母集団という。
 B 無作為抽出法 無作為抽出法とは、乱数表やくじ引きによりランダムに抽出する方法である。
 C 系統抽出法 系統抽出法とは「等間隔抽出法」といわれることもあり、一定間隔で対象を抽出する方法である。

* 正解 5

- ピアソンの標準相関係数に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。
- 1 相関係数がゼロになった場合は、2つの変数の間にはいかなる関係も存在しない。
 - 2 それぞれの変数の測定単位 (m と cm、円 と ドル など) が変われば、相関係数の絶対値の大きさも変化する。
 - 3 変数Xと変数Yに正の相関が、変数Yと変数Zにも正の相関がある場合でも、変数Xと変数Zに相関が存在しないことがある。
 - 4 2つの変数の間に相関があれば、どちらが原因となる変数でどちらが結果となる変数であるのかを特定できる。
 - 5 相関係数が大きな値を示せば、2つの変数の間に必ず直接の関連がある。
- ピアソンの標準相関係数は、量的尺度間の関係を数値で示す尺度である。-1から+1までの範囲をとる。
- 1 × 相関係数がゼロであっても、2つの変数に関係のある場合も存在する。
 - × 相関係数の特徴は、単位をそろえなくても計算できる点である。
 - 変数Xと変数Zに相関が存在しないことがありうる。
 - × 相関係数からは2変数間の関係の状況はわからない。
 - × 相関係数が大きな値を示しても、2つの変数の間に直接の関連がない場合もありうる。

* 正解 3

質的調査の方法

◆観察法

- ① 自然観察法
ありのままの日常生活の行動について一切制限を加えずに、観察する研究方法。
- ② 実験的観察法（編制的観察法）
研究者によって意図的に環境をコントロールし、観察する研究方法。
- ③ 参与観察法
調査対象と生活や経験をともにしながら、調査対象の行動の意味を理解しようとする方法。
- ④ 非参与観察法
外から観察して行動を記録する方法。

◆面接法

- ⑤ 自由面接法
質問の大半を決めたうえで面接を実施し、自由な会話のやりとりのなかで質問する事例調査の方法の一つ。
- ⑥ 非指示的面接法
質問の仕方を厳密に指示しない面接方法。
- ⑦ 深層面接法
調査のテーマだけが示され、どのようなアプローチをするかは質問者に任されている面接方法。
- ⑧ 半構造化面接法
質問すべき事項をインタビュー・ガイドにまとめる程度の準備をして質問する面接方法。
- ⑨ フォーカス・グループ・インタビュー
特定問題に密接にかかわるグループを相手に行う面接方法。
- ⑩ 事例研究（ケーススタディ）
事例そのものを研究対象とし、問題解決に向けたアプローチを見出すことを目指す分析方法。

◆質的調査における記録の方法と留意点

- ⑪ フィールドノート
インタビュー調査や観察調査による記録やメモを総称して、フィールドノートという。
- ⑫ トランスクリプション
録音されたインタビュー内容や観察記録として文字起こす作業をいう。また、通訳録をトランスクリプトという。
- ⑬ コーディング
フィールドノーツをもとに、データを解釈し、小見出しを作る作業。質的調査におけるコーディングは、量的調査のコーディングと見分けるため「定性的コーディング」ということもある。
- ⑭ 厚い記述
観察された事象をありのままに記述するだけでなく、その事象が本人にとってどのような意味をもつものなのか理解できるように、行為や出来事が起きた文脈や全体の状況も含めて記述すること。
- ⑮ 事象への密着性・多実性
観察された状況について、リアリティのある、生き生きとした記述で表現すること。

◆質的調査のデータの整理と分析

- ⑯ エスノグラフィ
エスノグラフィには、次の2つの場合がある。
①対象者の手紙や日記、口述データなどを収集し、他者の生きる生活世界や背景にある文化を深く質的調査方法。
②その調査の結果、書きあげられた報告書のこと。
- ⑰ KJ法
KJ法は、川喜田二郎が開発した質的データ分析法で、開発者のイニシャルからこうよぶ。データをカードに書いて細分化し、グループ化と異出しづの作業を繰り返し行い、焦点を絞り込んでいくもの。
- ⑱ グラウンデッド・セオリー・アプローチ
グラウンダー（Glaser,B.）とストラウス（Strauss,A.）によって考案された質的データ分析方法。データの解釈から説明力のある概念の生成を行い、そうした概念の関連性を高め、まとまりのある理論をつくる。日本では、菅下謙仁（1999年）によるデータを切片化しない「修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ（M-GTA）」も広く活用されている。
- ⑲ ナラティブ分析
調査対象者の語り（ナラティブ、物語）にある順序性やシークエンス（継ぎ連綿）も含め、現象を理解する方法をいう。
- ⑳ トライアングレーション
2人以上がかかわり、同じプログラムの研究において異なったアプローチでデータを収集・分析する方法。

質的調査

質的調査	質的データ (数字には還元しない言語のデータ) の分析を通じて、現象の記述、仮説生成、モデル生成を目的とする調査
調査手法	個人インタビュー グループインタビュー
調査法	非参与観察法 (人工的操作を加えない)
	参与観察法 (対象集団に、規制を加えたり、観察場面・手段に工夫を加えて観察を行う)
	アクション・リサーチ
	非構造化面接 (自由面接法)
構造化面接	半構造化面接

グラウンデッド・セオリー	観察や面接により資料収集を行い、記録し、データ化する。次にデータを単位化し、コードをつける。得られたコードを比較して、データの意味を解釈する。この作業を繰り返して、いくつものコードを集約してカテゴリーをつくる
KJ法	理論的飽和 データ収集とコーディングを繰り返した後、これ以上新しい概念やカテゴリーが出てこないに判断される状態
	質的データの分析において、主としてデータをまとめる際などに活用される データをカードに転写し、カードをグループごとにまとめて、図解し、文書化して整理していく データの分類と集約を通じて、分析前には気がつかなかったことを創造的につくり出すこともある
ソシオグラム	特定のグループにおける人間関係の構造を描写化するため、メンバー間の選択 (牽引)・拒否 (反現) 関係を用いて図表化したもの

■ KJ法

川喜田三郎によって提唱された質的データの分析手法の一つである。
データが書かれたカードを分類し、見出しをつける作業を反復して行うことで、新たな観点を発見する手法である。

- ▼ KJ法のプロセス
- ①カードの作成
1枚のカードに1つの情報を記入する。
 - ②カードの整理
内容が近いカードを集め、小グループを作る。
 - ③見出しの作成
小グループに「表紙」として見出しをつける。
 - ④中・大グループの作成
小グループ化できなかった1枚のカードを読み返し、内容の近いものを集め、中・大グループを作る。
 - ⑤図解化、文書化
1枚の大きな紙にグループ間の関係性がわかるように図解化し、それを文書化する。

■ グラウンデッドセオリー (GT法)

グレイサー、B. G. とストラウス、A. I. によって提唱された質的データの分析手法の一つである。
社会的現象においてデータの収集と分析を反復して行うことでデータに根ざした理論 (Grounded Theory) の生成を目指すものである。

■ グラウンデッドセオリーアプローチのプロセス

① データの収集	質的データの収集には様々な調査法を利用することができ、調査法は、調査対象、調査内容によって適宜選択する。 収集したデータに見出しをつける作業をいう。 例えばSWIHを問うてデータを探る。
② オープニング・コーディング (見出しの作成)	収集したデータの関連性を探る作業をいう。 データ間での仮説を立て、なぜ、どうやってなどの問いからデータを探る。
③ 軸足コーディング (カテゴリーの作成)	一定の仮説を立て理論の検証を図る作業をいう。 ③によって得られたカテゴリーの体系化を進め理論の完成を図る。
④ 選択的コーディング (カテゴリーの精緻化)	データの特性がそれ以上発展しない状態まで及ぶ。 理論がそれ以上発展しない状態を理論的飽和という。
⑤ 理論の完成	

問題 質的データの分析に関する次の記述のうち、適切なものを一つ選びなさい。

- 第22回 (2011年) (60)
- 1 KJ法の目的は、集めた意見やデータの分類と集約を通して、新しい発想や仮説を創造することである。
 - 2 会話分析は、発話者がいかにして相互行為を秩序立てて生み出すかを解明するために、会話の形式や構造ではなく、その内容に関心を与える。
 - 3 ソシオグラムでは、ある組織や集団の構成員同士の関係を、矢印のない無向グラフで表す。
 - 4 グラウランデッド・セオリー・アプローチでは、データ収集とコーディングを繰り返した後、これ以上新しい概念やカテゴリが出てこないかと判断される状態を、現実的飽和という。
 - 5 質的調査の信頼性と妥当性を高めるために、インタビュー、参与観察、質問紙調査など複数の調査法を組み合わせることを、エスノグラフィという。

答え 1

会話分析では、内容ではなく会話そのものに關心を向ける(2は適切でない)。ソシオグラムでは矢印も用いられる(3は適切でない)。グラウランデッド・セオリー・アプローチの分析の最終段階は現実的飽和ではなく、理論的飽和である(4は適切でない)。エスノグラフィ(エスノグラフィアン)とは調査対象の生活世界において、その行動様式や文化などを明らかにする調査方法という(5は適切でない)。

質的データの分析に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- 1 グラウランデッド・セオリー・アプローチでは、データの収集と分析が一体となり、繰り返して実施されるのが、その特徴の一つである。
- 2 KJ法を利用して質的データを分類するには、理論的枠組みに基づいてあらかじめ設定された分類軸が必要である。
- 3 ドキュメント分析を行う際、公的機関の統計や文書あるいは新聞・雑誌などのメディア文書は分析の対象となるが、日記や手記などの個人的記録は分析の対象とはならない。
- 4 グラウランデッド・セオリー・アプローチにおける軸足コーディングは、単一の事象に対して、複数のコードをほり付けていくことである。
- 5 KJ法は、質的データの分析において、主として仮説の検証を試みる際に活用される。

質的調査の代表的な分析手法について問うている。選択肢の内容に関しては最低限、確実に理解しておく。

- 10 グラウランデッド・セオリー・アプローチは、ストラウスとグラゼガーが開発した手法であり、社会的現象に対して、質的データの収集と分析を反復して行うことで、データに根ざした理論の生成を目指す手法である。
- 2× KJ法は、カード等を分類しながら探索的に理論的な枠組み等を分析していく手法である。
- 3× ドキュメント分析では、文字によっているすべての資料が分析対象である。
- 4× 軸足コーディングとは、データを分類、検証、比較、概念化、及びカテゴリ化した後に行う、諸カテゴリ間を関係づける作業のことである。
- 5× KJ法は、仮説を構築する時によく用いられる手法である。 ** 正解 1

調査手法としての面接法に関する次の記述のうち、適切なものを一つ選びなさい。

- 1 構造化面接では、面接の進行は、調査対象者に任せるのが望ましい。
 - 2 非構造化面接では、通常、詳細な質問項目や質問紙をあらかじめ用意しない。
 - 3 社会調査で行われる面接は、収集するデータの信頼性からも、1対1で行われるのが望ましい。
 - 4 半構造化面接では、通常、回答の選択肢を印刷した回答票を、回答者に提示して調査を進める。
 - 5 面接法を用いる際には、調査者と調査対象者との間にラポールが形成されるのは、データの信頼性を確保する上から望ましくない。
- 面接法は大きく「構造化面接法」、「半構造化面接法」、「非構造化面接法」の3つに分けられる。これらの区分はさほど難しくはないので、十分に理解しておく必要がある。
- 1× 構造化面接法とは、事前に決まった質問項目、質問手法で調査対象者に面接することであり、すべて調査者が進行しなければならぬ。
 - 2○ 非構造化面接法は、面接の状況にあわせて質問項目等を決めていく面接法である。
 - 3× 必ずしも1対1である必要はなく、複数の人を対象に面接することもある。
 - 4× 半構造化面接法は、ある程度事前に質問項目、質問手法を決定して行う面接法である。
 - 5× 調査対象者は、必ずしも初対面の調査者に対してすべてを語るわけではない。何か対面するなかで、ラポールが形成され、より調査したい内容が聞き取れる可能性が高くなる。 * 正解 2

面接法

構造化面接	事前に質問項目を決めておき、それに沿って進めていく面接手法である。
半構造化面接	ある程度事前に質問項目を決めておくが、面接の状況に合わせて項目を変更していく面接手法である。
非構造化面接	事前に質問項目を決めず、面接の状況に合わせて自由に質問する面接手法である。

問題 質的データの分析に関する次の記述のうち、適切なものを一つ選びなさい。

- 第22回 (2011年) (60)
- 1 KJ法の目的は、集めた意見やデータの分類と集約を通して、新しい発想や仮説を創造することである。
 - 2 会話分析は、発話者がいかにかして相互行為を秩序立てて生み出すかを解明するために、会話の形式や構造ではなく、その内容に関心を与える。
 - 3 ソシオグラムでは、ある組織や集団の構成員同士の関係を、矢印のない無向グラフで表す。
 - 4 グラウランデッド・セオリー・アプローチでは、データ収集とコーディングを繰り返した後、これ以上新しい概念やカテゴリが出てこないかと判断される状態を、現時的飽和という。
 - 5 質的調査の信頼性と妥当性を高めるために、インタビュー、参与観察、質問紙調査など複数の調査法を組み合わせることを、エスノグラフィという。

答え 1

会話分析では、内容ではなく会話そのものに關心を向ける(2は適切でない)。ソシオグラムでは矢印も用いられる(3は適切でない)。グラウランデッド・セオリー・アプローチの分析の最終段階は現時的飽和ではなく、理論的飽和である(4は適切でない)。エスノグラフィ(エスノグラフィアン)とは調査対象の生活世界において、その行動様式や文化などを明らかにする調査方法という(5は適切でない)。

質的データの分析に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- 1 グラウランデッド・セオリー・アプローチでは、データの収集と分析が一体となり、繰り返して実施されるのが、その特徴の一つである。
- 2 KJ法を利用して質的データを分類するには、理論的枠組みに基づいてあらかじめ設定された分類軸が必要である。
- 3 ドキュメント分析を行う際、公的機関の統計や文書あるいは新聞・雑誌などのメディア文書は分析の対象となるが、日記や手記などの個人的記録は分析の対象とはならない。
- 4 グラウランデッド・セオリー・アプローチにおける軸足コーディングは、単一の事象に対して、複数のコードをほり付けていくことである。
- 5 KJ法は、質的データの分析において、主として仮説の検証を試みる際に活用される。

質的調査の代表的な分析手法について問うている。選択肢の内容に関しては最低限、確実に理解しておく。

- 10 グラウランデッド・セオリー・アプローチは、ストラウスとグラゼガーが開発した手法であり、社会的現象に対して、質的データの収集と分析を反復して行うことで、データに根ざした理論の生成を目指す手法である。
- 2× KJ法は、カード等を分類しながら探索的に理論的な枠組み等を分析していく手法である。
- 3× ドキュメント分析では、文字によっているすべての資料が分析対象である。
- 4× 軸足コーディングとは、データを分類、検証、比較、概念化、及びカテゴリ化した後に行う、諸カテゴリ間を関係づける作業のことである。
- 5× KJ法は、仮説を構築する時によく用いられる手法である。 ** 正解 1

調査手法としての面接法に関する次の記述のうち、適切なものを一つ選びなさい。

- 1 構造化面接では、面接の進行は、調査対象者に任せるのが望ましい。
 - 2 非構造化面接では、通常、詳細な質問項目や質問紙をあらかじめ用意しない。
 - 3 社会調査で行われる面接は、収集するデータの信頼性からも、1対1で行われるのが望ましい。
 - 4 半構造化面接では、通常、回答の選択肢を印刷した回答票を、回答者に提示して調査を進める。
 - 5 面接法を用いる際には、調査者と調査対象者との間にラポールが形成されるのは、データの信頼性を確保する上から望ましくない。
- 面接法は大きく「構造化面接法」、「半構造化面接法」、「非構造化面接法」の3つに分けられる。これらの区分はさほど難しくはないので、十分に理解しておく必要がある。
- 1× 構造化面接法とは、事前に決まった質問項目、質問手法で調査対象者に面接することであり、すべて調査者が進行しなければならぬ。
 - 2○ 非構造化面接法は、面接の状況にあわせて質問項目等を決めていく面接法である。
 - 3× 必ずしも1対1である必要はなく、複数の人を対象に面接することもある。
 - 4× 半構造化面接法は、ある程度事前に質問項目、質問手法を決定して行う面接法である。
 - 5× 調査対象者は、必ずしも初対面の調査者に対してすべてを語るわけではない。何か対面するなかで、ラポールが形成され、より調査したい内容が聞き取れる可能性が高くなる。 * 正解 2

面接法

構造化面接	事前に質問項目を決めておき、それに沿って進めていく面接手法である。
半構造化面接	ある程度事前に質問項目を決めておくが、面接の状況に合わせて項目を変更していく面接手法である。
非構造化面接	事前に質問項目を決めず、面接の状況に合わせて自由に質問する面接手法である。

社会調査の実施にあたって のITの活用方法

◆社会調査の実施にあたってのITの活用方法

- 1 文献研究へのインターネット活用
インターネットの検索エンジンを利用して、学会や官公庁のホームページを検索し、さまざまな統計資料などを利用することができる。また、先行研究を検索できるCINI(サイニイ)などの文献検索ホームページもあり、キーワード検索も可能である。
- 2 CINI(サイニイ)は国立情報学研究所がインターネット上で提供している論文情報ナビゲーターで、著者名、論文名、キーワード検索など、調査したいテーマに関連する論文を探し、入手することができる。
- 3 NACSIS Webcat(Webcab Plus)
NACSIS Webcatは、目録所在情報データベースをもとにした、図書と雑誌の書誌・所在図書顔情報を検索できるサービス。国立情報学研究所が提供している。次世代型として、Webcat Plusが開発されている。
- 4 国立国会図書館ホームページ
国立国会図書館のホームページでは、図書検索および雑誌記事検索ができる。ちなみに「国立国会図書館法」により、国内で発行されたすべての出版物、国立国会図書館に納入することが義務づけられている。
- 5 インターネット上の統計資料の入手
省庁や県、市町村などの自治体は、それぞれの人口の推移や年齢構成その他の統計情報をホームページに掲載している。また、インターネット上にはさまざまな組織・団体が統計情報を掲載しており、入手可能である。
- 6 独立行政法人統計センター
独立行政法人統計センターは、総務省や省庁が実施した調査の製表作業、政府統計の総合窓口ホームページである「e-Stat」の運用管理を担当している。2003(平成15)年に独立行政法人化した。
- 7 WHO統計情報システム(WHOSIS)
WHO統計情報システムでは、世界の保健関連指標および資料のデータベースなど、世界の保健に関する統計情報を参照することができる。
- 8 インターネット上の資料活用における留意点
インターネットで得られる情報は、信頼できる情報と信頼できない情報が混在している。情報の発信源、ホームページの作成者や団体を確認すると同時に、それらが信用できるものか検討する必要がある。また、インターネット上で得た情報の引用など、データ使用における著作権などにも留意する必要がある。
- 9 新聞その他の資料の収集におけるインターネット等の活用
新聞記事検索データベースとして、朝日新聞の「朝日新聞のヨミダス」文芸館、日本経済新聞の「日経テレコン21」などが挙げられる。それぞれユーザー登録して利用料を支払えば、インターネット上で新聞記事検索が可能になる。
- 10 検索エンジンの活用
Yahoo! JAPANやGoogleなどの検索エンジンを活用することで、情報収集を効率的に行うことができる。

実力チェック! 一問一答

解答

- 1 1947(昭和22)年に施行され、2007(平成19)年に改正された調査データに関する法律を何というか。
統計法→No.5
- 2 国民経済計算(SNA)や国勢統計などの行政機関が作成する重要な統計は何か。
基礎統計→No.10(表1)
- 3 一般社団法人社会調査協会が定めた、社会調査に関する倫理をまとめたものを何というか。
社会調査倫理綱領→No.16(表2)
- 4 調査において、調べたい対象のデータ全体を何と呼ぶか。
母集団→No.26(図1)
- 5 国勢調査のように、調査対象者を全員くまなく調査する方法を何というか。
全数調査(悉皆調査)→No.25(図1)・27
- 6 調査対象者の一部を調査し、その結果から全体を推定する方法を何というか。
標本調査(一部調査)→No.26(図1)・28
- 7 すべての対象が標本に選ばれる確率が等しくなるように標本抽出する方法を何というか。
無作為抽出法(簡單標本抽出)→No.30(表3)
- 8 応答法、機械法、前当法などの標本抽出の方法を何というか。
有意抽出法(非確率標本抽出)→No.31(表3)
- 9 ある対象に対し、時間間隔をあけて何回もデータを取る調査のことを何というか。
縦断調査(時系列調査)→No.33
- 10 性別、国籍などの基準に従って、対象を特性の異なるいくつかのカテゴリーに分類する変数の尺度を何というか。
名義尺度→No.41
- 11 学歴のように、対象をある特性の違いによって、順序関係のあるいくつかのカテゴリーに分類する尺度を何というか。
順序尺度→No.42
- 12 気温のように、各カテゴリーの間隔が等しく、測定値間の差の関係が成り立つ尺度を何というか。
間隔尺度→No.43
- 13 どの程度安定(一貫)した測定を行えるかを示す係数を何というか。
信頼性係数→No.46・47
- 14 同一の対象者に、同じ結果が出ると思定される等質の2つの測定を行い、結果を比較する信頼性係数の検査方法を何というか。
平行検査法→No.48
- 15 同一の対象者に期間をあけて同一の測定を行い、1回目と2回目の結果を比較する信頼性係数の検査方法を何というか。
再検査法→No.49

解答

- 法を何というか。
- 16 複数の測定項目間に内的整合性があるかどうかを判断するための係数を何というか。
 - 17 あらかじめ用意した選択肢から回答を1つ選択する質問形式を何というか。
 - 18 通俗的な特定のイメージや価値観と結びついている言葉は何というか。
 - 19 複数のポイントを一度に尋ねようとする質問を何というか。
 - 20 前に配列された質問が、後の質問の回答に与える影響効果を何というか。
 - 21 調査員が対象者を訪問して質問紙を配り、回答の記入を依頼し、一定期間後に回収する方法を何というか。
 - 22 対象者を1か所に集めて質問紙を配り、その場で記入・回収する調査方法を何というか。
 - 23 調査員が個別に対象者を訪問して、口頭で直接質問して得た回答を、調査員が質問紙に記入する調査方法を何というか。
 - 24 調査で収集されたデータを、質問項目ごとに数値化することを何というか。
 - 25 量的データの分析において、それぞれのカテゴリや階級に属するデータの数を何と呼ぶか。
 - 26 得られたデータの特性を表す数値を統計的に計算したものを何というか。
 - 27 データの合計をケースの数で割った値を何というか。
 - 28 データを大きさの順に並べたとき、中央にくる値を何というか。
 - 29 名義尺度で算出できる代表値は何か。
 - 30 2つ以上の変数のカテゴリを組み合わせて、すべての組み合わせの度数を集計したものを何というか。

- クレンジングの度数→No.52
- 多肢選択法(単給・単一回答法)→No.80(第5)
- ステレオタイプ語→No.61
- ダブルバインドル質問→No.62
- キャリアオーバーパス効果→No.66
- 郵票調査→No.68, 69
- 集合(集団)調査→No.70, 71
- 訪問(個別)面接調査→No.74, 75
- コーディング→No.80
- 度数→No.82
- 記述統計量→No.86
- 標本平均(平均値、算術平均)→No.87
- 中央値→No.88
- 最頻値→No.89, 図表で整理1
学習ポイント2
- クロス集計→No.99(第7)

文献一覧

- 1) 志水幸監修 「社会福祉士国家試験対策 必修事項と範例問題 I 人・社会・生活と福祉編 2010」 みらい 2009年
- 2) 社会福祉士受験ワークブック編集委員会編集 「社会福祉士受験ワークブック専門科目編 2010」 中央法規 2009年
- 3) 市原清志・岩本美江子著 「カラーイメージで学ぶ 統計学の基礎」 日本教育研究センター 2006年
- 4) 社会福祉士養成講座編集委員会編集 「新・社会福祉士養成講座 社会調査の基礎 第2版」 中央法規 2010年
- 5) 島中宗一・木村直子著 「社会福祉調査入門」 ミネルヴァ書房 2005年